

NPO法人 アレルギー支援ネットワーク

2008年度 事業報告書

I. 特定非営利活動に係る事業

はじめに

今年度は、①「アレルギー大学」を軸にした事業の確立と定着を図りつつ、②拠点事務所の設置に向けた準備と組織財政基盤の強化としてスタッフ体制の拡充を目標の柱としつつ、③認定NPOの認可を目指した。

「アレルギー大学」はアレルギー支援ネットワークの中心的な活動の柱として、活動の未熟さからくる部分的な弱さはあるながら全体として大きな成果をおさめることができた。また、事務所の設置は場所と事務所費の捻出等課題も少なくなかったが、幸いなことにパナソニック（Panasonic NPOサポート フォンド子ども分野）の支援により事務所費と人件費の助成を受けられることになり、初年度の見通しがつくこととなった。

(1) アレルギーなどの普及啓発交流事業

アレルギーに関する科学的知識を講演会やホームページなどを活用して普及啓発及び交流を行った。

ア. ホームページなどによるWeb情報の提供と相談活動

(1) 随時ホームページ更新および「メール相談」に対応

HPのアクセス数は、2009年4月1日現在60442（トップページ閲覧数・2008年4月は46,720）、月間訪問者数は、Web担当者によるコンテンツの追加・修正でのアクセスも含まれているが、2008年3月（7,603）、2009年3月（9,806）で、前年に対して20%～30%程度の増加。アレルギー大学・メールマガジンなど繰り返し閲覧されるページの閲覧数が特に増加した。通年でアレルギー対策のページの閲覧数は、常に上位にあり、検索キーワードも「エビ・乳酸カルシウム（乳）・ハウスダスト」などの具体的な言葉も上位に位置している。また、アレルギー支援ネットワークの活動を支援していただくための寄付サイトを新設する準備をした。

(2) 毎月1回のメールマガジンの発行……メールマガジン登録数 339（PC:269 携帯:70）
16号～27号を配信（23号より一部変更、内容の工夫をした。）

アレルギー大学 講座での質疑応答の内容を記録し、Q&Aコーナーに掲載
防災のマメ知識、最新の医療情報などを掲載

(3) 相談活動はホームページなどを通じた「問い合わせ」が増え、多いときは、平日のほとんど毎日続くときが多くなった。電話相談も事務局長宛に毎日複数件寄せられている。今後、事務所の電話番号が知られるにつれ、事務所での対応が増えてくると思われ、この対応が今後の課題となる。

イ. 講演会の開催

独立行政法人福祉医療機構助成金事業としてミニ講座4回と記念講演をおこなった。名古屋市や浜松市など開催実績のある市町以外に、津島市や岐阜市など新しい地域において、アレルギーなどに関わる科学的知識や実生活に役立つ情報を広げる活動をすることができた。

①9/15 アレルギー大学特別講座「保育園や学校管理に必要なアレルギー対応」
宇理須厚雄先生 90名 伊藤浩明先生 80名

②11/24 津島市会場「食物アレルギーの常識を検証するー安心は正しい理解から」 30名
名古屋大学医学部 坂本龍雄先生

③11/30 静岡（浜松）会場「子どものアレルギー治療」 50名
かわだ小児科アレルギークリニック院長 川田康介先生

④12/6 岐阜会場「食物アレルギー最新情報」 40名
岐阜大学 金子英雄先生 → アレルギー大学in岐阜開講記念

⑤09.3/7.8 「アレルギーっ子のフェア」記念講演（名古屋国際会議場）

「今、アトピー治療は。世界ですすむ最新情報」松永佳世子先生 50名

「将来のアレルギー治療の方向 -アレルギーにならない時代はやってくるか?-」金子英雄先生 40名

ウ. リーダー養成事業

各地のアレルギーの会の活動を支える会のリーダーのスキルアップをはかるため、アレルギー大学に参加するリーダー・次期リーダーの、中・上級講座の資料代を免除し、交通費を補填する事業を行った。愛知・三重・静岡の会のリーダー・次期リーダー4人が応募し、研修を修了。レポートを提出した。

オ. 親子のアレルギー普及啓発事業

(独立行政法人福祉医療機構助成金事業「地域と家庭を結ぶ「アレルギー教育」支援事業」 200万円)

- ① 食物アレルギーなどを抱えた子どもが保育園・学校など集団生活のなかで健常児と変わらない環境で生まれるよう、絵本「ぼくしんぺい」・小冊子「ピーナッツアレルギーのさあちゃん」を作成し、各500冊無料配布した。アレルギー大学特別講座(9/15)から募集を開始。絵本・小冊子いずれか一冊を、4回のミニ講座とフェア会場にて配布。対象は、東海4県下の幼・保・児童施設、子育てグループ、子育て支援施設、アレルギーの会など。「アレルギーっ子のフェア」(2009年3月7日、8日)で配布終了
- ② 絵本、小冊子をHPから無料でダウンロードできるようにした。
- ③ 母ちゃん一座により「ぼくしんぺい」を絵本劇にして音声を録音。ミニ講座やフェアの会場で劇を上演、または映像と音声で紹介した。食物アレルギー児がもつ心の叫びが、会場の参加者に伝わり大きな反響をよんだ。

カ. その他

① ファディア(株) 寄付助成事業の実施 (154万円)

全国の3歳以上15歳未満の子どもが共同生活する小・中学校、保育園、幼稚園などの幼児・児童施設などに絵本「ピーナッツアレルギーのさあちゃん」(栗田洋子著)を無償配布し、ピーナッツアレルギーへの理解を広げた。また、「県立子ども病院」など子どものアレルギーを治療している全国各地の主要な医療機関のうち約80か所に無償配布した。(無償配布数合計600冊)

② 食物アレルギー研究会(東京)への参加

一般演題として「アレルギー大学開講3年間の歩み」を発表

全国初の取り組みを、アレルギー専門医およびアレルギー全般に関わる各分野の専門職種の方に報告をすることができた。

(2) 関連商品企画開発研究事業

ア. ペットアレルゲンを低減する調査研究事業

今年度はアレルゲンを低減化させる素材の開発を目指したが補助金・助成金などで予算化できず、継続できずに終わった。商品の開発とも密接につながるため、一般助成の採用は難しく、経済産業省などの新たな補助金などの獲得が今後の課題である。

イ. 関連商品の評価基準づくり

経営運営会議での検討結果は、利用者による利用モニターなど新たな角度から検討することとなった。

ウ. アレルギー関連調査事業

医学気象予報(ぜんそく予報など)は新たなホームページ作成に取り掛かったが、補助金や助成金などの獲得ができず、中断した。中部大学と日本気象協会東海支部との共同事業であるが、事業運営を軌道に乗せる構想の組み立てが課題となっている。

(3) アレルギーの会支援事業

ア. 会活動費助成事業

孤立しがちな患者やその家族同士を結び合う患者・家族の会の活動を支援し、会の活動資金を支援・助成した。9団体に対し約10万円の支援実績。その他、活動費が捻出できるよう、助成金申請の助言・支援をした。

イ. 会の活動を支援する事業

- ① アレルギーの会への活動支援

豊田アレルギー児ママの会・みちの会・常滑アレっ子ママの会・一宮アレルギーっ子サークルくれよん・豊川アレルギーっ子の会・岡崎アレルギーの会 などの定例会にアドバイザーとして参加。活動の支援をした。40回/年。

- ② 東海アレルギー連絡会（4/26.7/13.10/19.2/15）の開催の協力
- ③ 「三河地域アレルギーっ子ママネットワークの構築」の企画実施支援
- ④ 「ミニアレルギー大学 i n 小牧」の企画実施支援
- ⑤ アレルギーの全国交流会 i n 千葉（8/10）に参加し、活動の報告や展示ブースの協力 また、全国連絡会の会計監査を担当、活動の支援をした。

(4) 公的事業への支援協同事業

ア. 給食支援事業(Panasonicサポートファンド助成金、東海ろうきん助成金事業) アレルギー大学

- ① 三重県・・・教育委員会など自治体の協力もあり、5講座2調理実習にのべ302名(受講生約80人)と目標を大きく上回り成功を収めた。
静岡県・・・8講座2調理実習にのべ174名(受講生約36人)であった(昨年のべ280人)。参加者が少なくなった原因は募集地域を静岡西部地域中心としたためで、参加人数が少なくなることが予想できたが、その分、昨年の初級受講者が中級講座に参加できるよう新たに中級講座を設けた。しかし、講座設定が中途半端ということもあり、参加者が減少となり、課題を残した。
愛知県・・・13講座7調理実習に約900人(受講生約120人)の参加(一部参加予定者を含む)となった。受講生の特徴は職場や知人、職能団体からの口コミや紹介などによるものが半数以上となり、順調に定着しつつあるといえる。また、上級実習では、今までの実習に加え参加者それぞれのフィールドでの問題を持ち寄り、ディスカッションにより今後の課題を明確にする場とし、職種などを超えた人と人とのつながりを確かなものになった。しかし一方で、「保育士・養護教諭コース」の受講生は10%前後にとどまっており、同コース新設講座「アトピー性皮膚炎」などの参加者も少なく、広報の周知など、今後の運営の課題となった。

②アレルギー大学企画会議の実施

第1回 2008年11月2日、第2回 2009年2月15日

事業としての採算性・講師陣・研究コースの内容・教科書などについて検討

③第4期アレルギー大学パンフレットを 15000枚作成した。

A3サイズ 両面2枚カラー 講座の特徴、講師紹介、受講者紹介など掲載

イ. アレルギー教本普及事業

アレルギー大学の教科書として受講生への普及とあわせ、書店での販売が多くはないが継続した。

ウ. 「アレルギー大学」の事業

アレルギー全般に関わる各分野の専門職種の方への支援事業として発展させるために、食物アレルギーに関わる「特別講座」を開講した。

- ① 「保育園や学校管理に必要なアレルギー対応」
- ② 「アトピー性皮膚炎」 乳幼児・学童・思春期
- ③ 「食品表示」・・・「アレルギー表示をわかりやすく」「新九義務化されるエビ・カニなどの検知法」
「日生協のアレルギー食品表示の取り組み」
- ④ 親子クッキング
- ⑤ 離乳食クッキング

(5) 災害対策への支援事業

- ア. 防災・救援ネットワークシステムの定着をすすめる事業
- イ. 災害用品備蓄拠点の設置など防災活動の事業

ウ. 災害ボランティアなどの団体と協同する事業

「震災がつなぐ全国ネットワーク」など災害ボランティア団体が行う企画に参加し、アレルギーを持つ人々への要支援対策の必要性をアピールした。

防災フェア 出展 …… 11/3 瑞穂区 11/23 緑区

こどものための防災教室「地震ってなあに？」……1/11 レスキューストックヤード企画 愛知淑徳大学
あいち防災リーダー塾受講 全4回講座(10/5.10/11.11/8. 11/22)

その他 岡崎水害支援 8/28未明豪雨 ～ 約一週間 防災ボランティア支援センターにて待機、患者支援を行った。小麦アレルギーの乳児を持つ家族からレスキューストックヤードから救援の要請があり、自宅訪問の上、離乳食などを配達し、激励した。

(6) 関連用品の販売普及事業

ア. アレルギー関連用品の販売事業

販売普及活動は東海地域のアレルギーの会からの共同購入が中心であり、また、「生活改善指導」とに多くの時間をさかないと実績は伸びないこと、HPからの問い合わせも増加しており、単に「販売」することを目的としないNPO事業としての独自性（患者のQOLを高める普及活動）をどう定着・発展させるか、さらに強化する必要がある。

II. その他の事業

ア. 食材など商品の販売事業

本年度は事業をおこなわなかった。